

オートモーティブ特集によせて

パナソニック（株） 常務役員

オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社

上席副社長 柴田 雅久



パナソニックのオートモーティブ事業は、カーオーディオ、カーナビゲーションなどインフォテインメント機器を中心に事業を拡大してきました。これまで約60年の歴史のなかで、多くの世界初、業界初の商品を生み出し、インフォテインメント分野ではグローバルNo.1シェアのメーカーに成長することができました。

現在のガソリン自動車が登場して約100年が経（た）ち、車は3つの大きな転換期を迎えています。1つ目は環境・エネルギー問題に端を発した環境対応車の普及拡大、2つ目は、車の普及に伴い増加した交通事故の撲滅に向けた取り組みの加速、そして3つ目は、ネットワーク社会に適応するための車のコネクティビティ化です。これらの進展に伴う電子化や電動化によって、車を構成するカーエレクトロニクス部品は増え続けており、部品を統合するためのモジュール化が進行し、当社にとってもビジネスチャンスが拡大しています。

当社はカーナビゲーションからバッテリー、カメラなどのシステムでカーメーカー様にご貢献することに加え、スイッチ、センサなどのデバイスを他のサプライヤー様に納めて間接的にご貢献するデバイスメーカーとしての側面と、基板材料などを納入する材料メーカーとしての側面も併せもっており、電子化や電動化による部品の統合化が急速に進む車業界のおかれている環境下では、当社のもつ幅広いシステム、デバイス群がお客様へお役立ちできるものと考えています。

そうしたなかで、当社は、「快適」「安全」「環境」の3つの分野で、お客様にとって不可欠なサプライヤーになるべく取り組みを強化してきました。

「快適」分野では、ドライバー支援をコンセプトにグローバルNo.1シェアのDA（Display Audio）と、これまで培ってきたHMI（Human Machine Interface）を進化させ、飛躍的に増大するドライバーへの情報を簡単かつ効果的に提供できる次世代コックピットシステムを開発し、快適な運転環境の提供に取り組んでいます。

「安全」分野では、ドライバーの不注意による事故を

車が未然に防止してくれるドライビング支援を目指し、2014年4月にADAS（Advanced Driving Assistant System：先進運転支援システム）開発センターを発足させました。当社がこれまで家電分野で培ってきたカメラ技術・画像処理技術や産業分野で培ったセンサデバイス群など、当社のリソースや経験を結集したADAS開発を加速し、既に実績のある車載カメラ・ソナー・ECU（Electric Control Unit）も活用して、安全な車社会の実現に向けてお客様へのお役立ちをより一層加速しています。

「環境」分野では、鉛電池からニッケル水素、リチウムイオン電池までの幅広い電池ラインナップと、それを核としたシステム統合化技術や小型化・高効率化デバイス技術を活用した電源システムの提供により、CO₂排出規制に対応する多様な環境技術で環境対応車の普及に貢献していきます。

このように当社は、家電や産業で培った技術や経験を車載事業に適用することに加え、2014年9月に発表したスペインのフィコサ・インターナショナルS.A.との資本業務提携など、協業・M&Aなどにも取り組み、2018年度にオートモーティブ事業で2.1兆円販売達成に向けさまざまなチャレンジを続けています。

今回の特集では、「快適」分野からコックピットにおけるドライバー支援システムの関連技術とデバイスの取り組み事例を、「安全」分野からITS（Intelligent Transportation System：高度道路交通システム）関連技術・ドライビング支援システムの関連技術を、「環境」分野から環境対応車向けシステムの関連技術・デバイスの取り組み事例について、当社グループのシステム商品とそれらを支えるデバイス技術について紹介しています。

当社は、当社グループがこれまでに家電・産業で培ってきたさまざまな技術やノウハウを有効に活用することで車専業メーカーには真似（まね）できないユニークな提案を実現し、グローバルサプライヤーのTOP10入りを目指しています。当社オートモーティブ新規事業の取り組みについてご理解いただければ幸いです。